



## 1 畜産の現場へ 食肉公社・畜産技術センターを訪問

島根県食肉公社と県畜産技術センターを訪問しました。しまね和牛のブランド化、飼料価格の高騰、担い手の確保など、畜産を取り巻く課題を現場で伺いました。生産から加工・流通まで、島根の畜産を支える体制づくりに取り組んでまいります。



## 2 出雲市 × 東京外国語大学でおろち祭りプロジェクト始動

出雲市と包括連携協定を結ぶ東京外国語大学に招かれ、学生向けセミナーの講師を務めました。島根・出雲の概況・歴史・文化についてお伝えしました。東京外国語大学の学生・地元の高校生・地域のみなさん・行政で「おろち祭り」を盛り上げる地域プロジェクトが始まります。若者と地域をつなぐ流れを、これからも後押ししていきます。



## 3 特別支援教育・幼児教育の現場・保護者の皆様の声を県政へ

島根県特別支援教育振興会と島根県幼稚園こども園振興会の副会長に就任しました。特別な支援を必要とする子どもたちが安心して学べる環境づくり、幼児教育の現場の人材確保や処遇改善など、現場と保護者の皆様の声を伺っています。先日は、いただいた声を要望書として教育長に直接お伝えしました。



## 4 医療・介護・リハビリの現場の声を県政へ

島根大学医学部附属病院の「1日看護体験」に参加し、看護師の皆様の仕事を間近で体験しながら、人材確保や働き方の課題を伺いました。島根県看護連盟青年部の皆様、理学療法士の皆様との意見交換もあわせて行い、医療現場の切実な声を県政に届けています。



## 5 U-45 島根若手議員の会を立ち上げ

党派や市町村の枠を超えた「U-45 島根若手議員の会」を立ち上げ、これまで4回の勉強会を重ねてきました。県内の若手議員 32 名が参加しています。島根大学では学生向けセミナーも開催しました。人口減少時代の島根の課題を、次世代の視点で議論し、政策につなげていきます。



## 6 AI 活用の学びを島根へ

中小企業の経営者・役員の皆様向けに、AI エージェント活用セミナーを開催しました。行政・教育・中小企業での AI 活用は、6 月定例会の一般質問でも取り上げました。人手不足が進む中でも、テクノロジーの力を活用して島根の産業を支えていけるよう、県に問題提起を続けています。

県議会議員になり、3年半が経過しました。

この間、県議会の本会議質問と委員会での議論を重ね、不妊治療への支援拡充、不登校の子どもたちの支援、市内の浸水被害対策をはじめ皆様から伺った声の一つずつ県の予算・制度につなげてまいりました。

また、道路や河川など暮らしを支えるインフラの整備と防災・老朽化対策を計画的に進め、地域の守り手である建設業の担い手確保を後押しすること、そして、障がいのある方や高齢者の皆様が住み慣れた地域で安心して暮らし続けられるよう、福祉・介護の現場で働く皆様の声を県政に届けることにも力を注いでいます。

"次代に残したい未来と次代に誇れる故郷"のために、これからも皆様一人ひとりの声を羅針盤に、現場主義を貫いてまいります。NEWS LETTER Vol.5をお届けします。

LINE

森山ゆうすけ公式LINE

登録よろしくお願いします！



## 島根県政の TOPICS

### 1 TOPIC 今市町大規模火災 復興への取り組み

令和 8 年 6 月、出雲市今市町で大規模な火災が発生し、多くの方が被害に遭われました。被災された皆様に心よりお見舞いを申し上げます。発生直後から現場に入り、クラウドファンディングの立ち上げ、被災された方が利用できる県・市の支援制度（住まい・生活資金・事業再建）の構築を行政とともにに行い、有志による「今市大規模火災復興プロジェクト」の立ち上げなど奔走しました。現在は、がれきの解体撤去の目処がたち、今後の住まいの再建と商店街のにぎわい回復に向けた復興の枠組みづくりが、地元の皆様・行政とともに進んでいます。引き続き全力で取り組みます。



### 2 TOPIC 会派を代表して、9 月定例会で代表質問に立ちました

令和 8 年 9 月 16 日、会派「自民党ネクスト島根」を代表して質問に立ちました。貫いたテーマは、人口減少時代に「県にしかできない仕事とは何か」。市町村の役場で人手不足が進む中で県が果たすべき支え役、食料品の消費税引き下げが県財政や農家・飲食店に与える影響、米づくりを続けられる価格の確保、観光戦略、出雲縁結び空港の座席数減少への対応、県東部・西部の医療の格差、AI 時代の教育と不登校の子どもたちの学びの保障まで、暮らしに直結する 7 項目 21 問を知事・教育長らと議論しました。



### 3 TOPIC 島根県サッカー協会 特任理事に就任しました

このたび、島根県サッカー協会の特任理事に就任しました。私自身、小学校から中学校、高校、大学までサッカー一筋に歩んできました。お世話になったサッカーへの恩返し気持も込めて、島根県のサッカー界を盛り上げていくべく、懸命に取り組んでまいります。



# 森山ゆうすけが 県議会で取り上げてきた課題

## 課題1 再生産可能な米づくりのために 提案中

【背景】県内の基幹的農業従事者は約 20 年で 3 万人余りから 9,903 人まで減少。令和 8 年産米の概算金は 60kg あたり 16,000 円と、「これでは続けられない」という声を多くの生産者から伺っています。

**森山からの質問** 資材も燃料も上がる中、この価格では再生産できません。生産者が将来を見通せる米政策を国にどう働きかけるのですか。「儲かる水田農業」に向けて、県はどう取り組むのか。



※画像はイメージです。

**行政からの回答** 農林水産部長：米の価格は、生産者にとって再生産可能な水準であることが重要。県は 7 月、政府備蓄米の早期買い戻しなどを国に緊急要望した。国は 21 万トンの買い戻しを決めたが、需給の安定にはなお不十分であり、引き続き国に求めていく。県としても、高温に強い新品種や有機米、水田園芸により、収益性の高い水田農業の実現を目指す。

## 課題2 出雲縁結び空港の東京便の座席減少への対応 提案中

【背景】出雲縁結び空港の利用者は年間 113 万人を超え過去最多。ところが航空会社の機材更新により、令和 10 年度から東京線の座席数が 1 便あたり 2 割程度減る見込みです。

**森山からの質問** 利用者が増えているのに座席が減るのは、運賃のさらぬる上昇も避けられません。座席数の確保にどう対応するのか。運用時間の延長も見据えた増便・新路線誘致への取り組みとあわせて伺います。



※画像はイメージです。

**行政からの回答** 地域振興部長：機材更新の際には増便などにより現在の座席数を維持するよう日本航空に要望しており、今後も地元協議会とともに協議を続ける。新規路線は厳しい状況だが、出雲仙台線が 10 月に季節便として再開する。運用時間の延長や発着枠の拡大も踏まえ、路線の誘致・拡大を働きかけていく。

## 課題3 空き家対策に県の力を 提案中

【背景】人口減少で空き家が増える一方、解消には相続と権利関係の整理など高度な専門知識が必要です。「県外の所有者がどこに相談してよいか分からず、放置につながっている」という声も伺っています。

**森山からの質問** 市町村任せにせず、県が主体的に関わるべきです。どの市町村の物件でも一括して専門相談できる「広域相談窓口」や、専門家を「空き家コーディネーター」として認定し市町村の窓口へ巡回 派遣する仕組みなど、先進県の取組を島根でも検討しては。



※画像はイメージです。

**行政からの回答** 土木部長：空き家対策の必要性は今後ますます高まる。市町村への情報提供や技術的助言、市町村間の連携促進をこれまで以上に積極的に行うとともに、議員から提案のあった施策も含め、市町村に寄り添った支援の在り方を、市町村の意見も伺いながら検討していく。

## 課題4 災害に備える公共事業の財源確保を 提案中

【背景】道路や河川の整備など暮らしを守る公共事業は、国の補正予算に大きく支えられてきました。国が令和 9 年度から「補正予算依存からの脱却」を掲げる中、国土強靱化などの財源への影響が懸念されます。

**森山からの質問** 国の方針転換で、国土強靱化などの公共事業や災害対応の財源確保に影響が生じるおそれがあります。「必要十分な地方財政措置」として、国に何を求めていくのか。



※画像はイメージです。

**行政からの回答** 知事：これまで補正予算で講じられてきた手厚い地方財政措置が当初予算に切り替わる際に薄くなれば、事業規模の縮小を招きかねない。来年度の地方財政措置において、これまでの補正予算に準じた措置が講じられるよう、国に求めている。

## 課題5 中山間地域・離島の暮らしを守る 提案中

【背景】中山間地域・離島は県土の大半を占め、買い物・交通など生活機能の維持が年々難しくなっています。

**森山からの質問** 買い物などの生活を支える「小さな拠点」は、仕組みづくりと人づくりをセットで進めるべきであり、クマなど有害鳥獣の緊急銃猟は県と市町村で権限が分かれ、現場が混乱しています。整理が必要では。



※画像はイメージです。

**行政からの回答** 農林水産部：クマなどの緊急銃猟の制度のもとでも、県・市町村・警察・猟友会が連携した初動対応は変わらない。住民の安全確保を最優先に、現場で丁寧な協議と確認を行い、研修で対応手順の確認も進めている。

## 課題6 放課後児童クラブの充実 実現

【背景】共働き家庭が増える中、放課後児童クラブの待機児童や開所時間の短さ、支援員の確保が課題でした。

**森山からの質問** 「入れないと聞いて最初から申し込まない」数字に表れない潜在的な待機児童がいます。現状を把握した上で、出生数や居住動向を踏まえた需給予測に基づく整備計画を、市町村と連携して検討すべきでは。



※画像はイメージです。

**行政からの回答** 健康福祉部長：市町村の計画では潜在的な利用希望も考慮されており、県として確保策の実施を支援していく。特に待機児童が多い松江市・出雲市の中心部などは、状況をよく把握し対応していきたい。

**実現したこと** 支援予算が約 10.5 億円に拡充。令和 8 年度からは子どもの体験活動・学習習慣づくりへの支援も追加されました。

## 課題7 不登校の子どもたちに、学びと居場所を 実現

【背景】不登校の児童生徒が増える中、学校にも民間の支援にもつながっていない子どもが少なくありません。

**森山からの質問** 不登校の子どもたちが増え続けています。学校に行きづらくても、学びたいと思ったときに学べるように——一人ひとりの「学びの権利」をどう保障していくのか。



※画像はイメージです。

**行政からの回答** 教育長：学びたいと思ったときに学べる環境を整えておくことが大切。校内や学校外の教育支援センターに県として財政支援を行い、フリースクールとも連絡協議会を設置して連携を図っている。個々の状況に応じた一人ひとりの学びを支援していく。

**実現したこと** 校内教育支援センターへの支援が約 1.8 億円に拡充。フリースクール等連絡協議会も設置され、民間との連携が始まりました。

## 課題8 AI・DX で人手不足の解消と生産性向上を 提案中

【背景】2040 年には行政職員の大幅な減少が見込まれます。急速に進化する AI を、県庁・学校・中小企業の力にしていける必要があります。

**森山からの質問** 次期 ICT 戦略のビジョンをどう描くのですか。教育現場の AI 活用による先生の負担軽減、中小企業の AI エージェント活用支援とあわせて伺います。



※画像はイメージです。

**行政からの回答** 知事：テクノロジーを適切に活用して業務効率化を図り、生み出された時間を県民の皆様に寄り添う業務や政策立案など人にしかできない業務に充て、より質の高い行政サービスを目指す。

## 森山ゆうすけ 県政報告会 11月15日(日)15:00～ パルメイト出雲 特別開催

来賓 橋本聖子 参議院議員 (日本オリンピック委員会会長)

入場無料 申込み不要

9月～11月に市内各地区でも開催中です。各地区の日程は別チラシ・ホームページ・公式LINEをご覧ください。



### ホームページ・SNS

ホームページ、各種SNSで政治の見える化をテーマに日々の活動や政策等について発信していきます。ぜひ、フォローし、チェックをお願いします。



ホームページ



Facebook



X



Instagram

森山裕介事務所 TEL.0853-24-2035  
〒693-0008 出雲市駅南町3丁目14-6-1 FAX.0853-22-4136

公式LINE ご登録お待ちしております！  
政治をもっと身近にすることをテーマに、問題意識や政策の説明、皆様のご質問、ご要望にお応えします。

